



足立課長



宮氏

兵庫県加西市は、東西部が台地で、北部は山地(海拔300~500m)が連なる中国山地の裾野、南部は低い山地(海拔200~250m)を形成し、市域面積は150・19平方キロメートル、人口は今年7月31日現在で4万2519人(1万7263世帯)となっている。

兵庫県南部に位置する加西市は、東西部が台地で、北部は山地(海拔300~500m)が連なる中国山地の裾野、南部は低い山地(海拔200~250m)を形成し、市域面積は150・19平方キロメートル、人口は今年7月31日現在で4万2519人(1万7263世帯)となっている。

兵庫県加西市

中小事業体では、市町村合併に伴い、上下水道関連施設が広域・点在化するとともに、職員数の減少やベテラン職員の退職などを踏まえ、効率的な施設の運転・維持管理が課題となっている。近年ではタブレット端末やパソコン、携帯電話などを用いて、施設を遠隔管理するシステムを導入する動きが広がっている。本紙では兵庫県加西市、鳥取県琴浦町をルポし、これらの取り組みを紹介した。

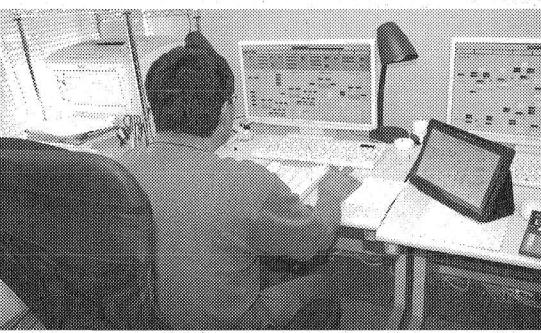
(大阪新聞部・石上和弘)

頑張れ
中小規模
上下水道

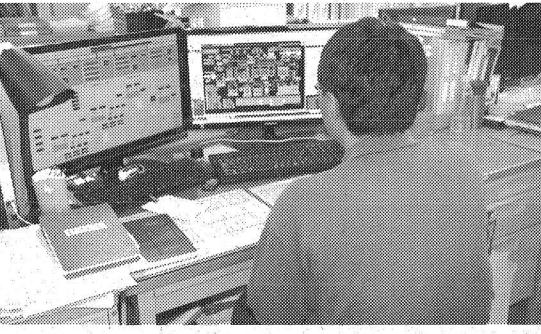
広域・点在化する上下水道関連施設を遠隔管理へ

クラウド統合水管理システムなどを導入へ

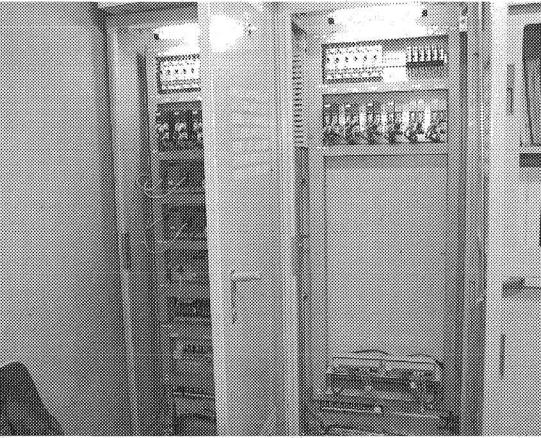
創意工夫で
社会的責務を
果たす



上水道施設は専用回線で遠隔監視



下水道施設の管理システム(右)と上水道施設の監視システムを同じ机上で操作



上水道施設で導入した集中監視システムで、テレビメータ親局盤の中もすっきり



日吉東処理施設

多くの仕様として、テレメータによる集中監視システム(エム・システム技術)を導入した。「現在はパソコン2台・タブレット3台を用いて配水池とポンプ場減圧弁の合計16カ所の流量・水位などを専用回線で遠隔監視しています。」

上下水道で監視使い分け 補助要件緩和や維持支援を

「マンホールポンプ場は数多いため、3カ年で段階的に導入しておきたい」と、夫氏は「本市の污水处理は平成21年度末で概成し、普及率は平成26年度末で99・2% (合併浄化槽込みで99・8%) となつていています。特に農業集落排水はコミュニティープラント6カ所を整備し、これらを囲むように農業集落排水設設19カ所が点在している。」

「多くのことです」と紹介する。夫氏は「モバイル端末などを用いて、管理画面や警報メールで運転状況の即時確認、緊急性の判断などを可能にするので、非常に便利です。下水道設備の管理は市内6ブロックに分けて委託しており、

「第5次加西市総合計画」(平成23~32年度)の基本計画の施策「水環境のまちづくり」では、10年後の到達目標として、「安全安心で安定した水道水の供給」「美しい水環境」を掲げられている。

足立課長は「基本計画の施策の課題では、上下水道施設の計画的な耐震化・定化・適正化などが掲げ

れている。足立課長は「基本計画の施策の課題では、上下水道施設の計画的な耐震化・定化・適正化などが掲げ

れている。足立課長は「基本計画の施策の課題では、上下水道施設の計画的な耐震化・定化・適正化などが掲げ

れている。足立課長は「基本計画の施策の課題では、上下水道施設の計画的な耐震化・定化・適正化などが掲げ

れている。足立課長は「基本計画の施策の課題では、上下水道施設の計画的な耐震化・定化・適正化などが掲げ

できる仕様として、テレメータによる集中監視システム(エム・システム技術)を導入した。「現在はパソコン2台・タブレット3台を用いて配水池とポンプ場減圧弁の合計16カ所の流量・水位などを専用回線で遠隔監視しています。」

「現在はパソコン2台・タブレット3台を用いて配水池とポンプ場減圧弁の合計16カ所の流量・水位などを専用回線で遠隔監視しています。」

「現在はパソコン2台・タブレット3台を用いて配水池とポンプ場減圧弁の合計16カ所の流量・水位などを専用回線で遠隔監視しています。」

「現在はパソコン2台・タブレット3台を用いて配水池とポンプ場減圧弁の合計16カ所の流量・水位などを専用回線で遠隔監視しています。」

「現在はパソコン2台・タブレット3台を用いて配水池とポンプ場減圧弁の合計16カ所の流量・水位などを専用回線で遠隔監視しています。」

「現在はパソコン2台・タブレット3台を用いて配水池とポンプ場減圧弁の合計16カ所の流量・水位などを専用回線で遠隔監視しています。」